

☆***☆***☆***☆***☆***☆***☆***2024. 4. 17**☆

60 歳からの人生を準備するための
【人生の添乗員(R)】からのワンポイントメッセージ

続・60 歳からの節約術

発行者：牧野 F P 事務所合同会社代表社員 牧野寿和

牧野 F P 事務所公式サイト：<https://www.makino-fp.com>

☆***☆***☆***☆***☆***☆***☆***通算第 592 号***☆

<目次>

- ◆ 今週のテーマ
- ◆ 今週のポイント
- ◆ 編集後記
- ◆ 「人生の添乗員」牧野寿和のプロフィール

:

- ◆ 今週のテーマ

続・60 歳からの節約術

:

この記事は、「60 歳からの節約術（第 588 号）」の
続編です。

第 588 号では、いつもにも増して、
「自分の場合はどうなる、どうしたらいいの？」

と、ご質問をいただいています。

ただ、私の不徳の致すところ、
また時間的にも、
ほとんど質問にお答えすることが、
出来ていません。

もっとも質問された方の、

性別や年齢、居住地、職業、
収入といった、
いわゆるその方の属性を知らないと、
的確な回答ができこともあります。

そこで今回は、
質問の多かった部分や

また、588号とは、
別の側面からに焦点を当てて、

まずご自身でできることを
検討してまいります。

お伝えする内容は次のとおりです。

- ・ 今後の収支を客観的に書出す
- ・ 増やせる、減らせる
- ・ 足りないものは足りない
- ・ 世の中すべて止まっているものはない

今後の収支を客観的に書出す

まず、今後の収支や予定、
ライフプランを、

エクセルや方眼紙、コピー用紙でも
いいでしょう。

わかっている範囲内で、
誇張することなく、
ありのままに書出します。

何歳までかは、
その方の考え方次第です。

たとえばですが、
日本人の平均寿命を、
男性 81 歳女性 87 歳として、

そこに、5 年とか 10 年を足した年齢まで、
または、男女とも 100 歳まで、
としても良いでしょう。

<収入>

収入は、
現在、給与所得者の方は、
出来れば手取り額の
退職までの給与の推移を、

現在把握できてる範囲内で、
ボーナスや退職金なども含めて、
書出します。

事業主の方は、
収入から経費等を引いた、
所得を年単位で書出します。

また、公的年金は日本年金機構の
「ねんきん定期便」や「ねんきんネット」
の見込額受給額を写します。

それに加えて、
企業年金や個人年金保険といった、
今後、収入が見込まれるものの数値を、
客観的に拾って書き写します。

わからない数値は「0円」にしておき、
判明した時に加えます。

また、このくらいになるだろうと、
「おそらく」の上乗せは禁物です。

<支出>

支出も収入同様に、
年単位で結構ですので、
生涯、家計からの支出額を書出します。

まったく、将来の予測が立たない方は、
現在の支出額を、
生涯の支出額とします。

収入とは反対に、支出額を、
今後は、このくらいに
下げることにはできるだろうと、

体験したことのない数値まで、
下げることにはやめましょう。

増やせる、減らせる

収入を増やすにも、
支出を減らすにも、

退職後、自宅に居ることが多くなり、
光熱費が増えた。

退職後スーツをこしらえる回数が減り
支出が減った。

というように、必ずしも家計収入は、
一定ではなく、増減していきます。

そこで、例えば60歳、65歳、70歳といった
5年ごとに、収支を想定してみる。

また、60歳から給与が年収が□□□万円から、
〇〇〇万円に減額する。

60歳前半から特別支給の老齢厚生年金を受給する。

65歳退職して退職金が支給されるし、
加給年金込みの老齢厚生年金を受給する。

69歳からは、配偶者も年金を受給して、
世帯の年金受給額が一定になる。

また年金収入にともない、

所得税や住民税、国民健康保険料や
介護保険の納付額が変わっていく。

といった、ターニングポイントごとで、
家計収支を想定してもいいでしょう。

ただし筆者は、
支出額は、ほとんど同額で、
余り減らすことないと考えています。

収入額が減り、
支出はあまり変わらない状態の
家計の節約術を考えることが、
大切だと考えます。

足りないものは足りない

現在の生活を維持したくても、
そのための支出額が足りなければ、

そもそも本当に足りないのか、

単なる浪費によって足りないかは、
試算してみないと、
わかりませんが……。

思い通りの生活をするには、
足りない分を、
収入を増やして補うか、

無駄な支出を減らすしか
方法はありません。

足りないものは足りないと、
足りないことを客観的に認めて、
将来、家計が成り立たなくなることを避ける、
その対策を打っておくことです。

世の中すべて止まっているものはない

インフレ傾向であれ、
デフレ傾向であれ、
世の中は止まることはありません。

常に、動いています。

そこで、その流れに流されることなく、
一度、立ち止まって、
自身の足元を顧みることも大切です。

その年齢を、筆者は 60 歳と考えます。

なぜなら、客観的にまた色を付けることなく、
自分の人生を、
振り返ることができる年齢だと
考えるからです。

従って、この歳までの家計の収支には、
これまでの節約術の結果です。

今後さらに家計支出を締めるなら、
それが、60 歳からの節約術になります。

今までの経験から、
その方法は簡単に見つけることができます。

なぜなら、作成したライフプランに基づき、
生涯家計が破たんしないように、
支出を調整するだけの節約術だからです。

::*:*:*:*:*:*:*:*:*

◆ 今週のポイント

::*:*:*:*:*:*:*:*:*

老後の生活資金、

心配なら

やはり、早期の対策を！

:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:

◆ 編集後記

::*:*:*:*:*:*:*:*:

60 歳は、まだ若いです！

しかし、年金を受給する年齢が、
近づいてくることは、

確実に、歳を取っている！？

:*:

◆ 「人生の添乗員 (R)」 牧野寿和のプロフィール

*:

日本で唯一「人生の添乗員 (R)」を名乗れる
公正中立な独立系ファイナンシャルプランナー
創業 21 年目
1958 年 名古屋市生まれ、大学 (東海大学卒業)
以外は、名古屋で居住。

1982年～2001年 旅行会社に勤務。
業務で世界各地を廻っていた時、
日本の方と他国の方々の
お金との付き合い方の違いを感じていた。
そんな時渡米した折に、
初めてファイナンシャルプランナーの
存在を知り、
日本でもこの業務の必要性を認識する。

2003年 牧野FP事務所を創業。
2018年から牧野FP事務所合同会社を設立。
これまでに、
延べ1100件以上の様々な相談に対応。

相談者へのプランニングの助言と提案を
主な業務とし、
相談者に、安心できる生活が送れるように、
丁寧な業務を心がけている。

<保有資格>

- ・NPO法人日本ファイナンシャルプランナーズ（FP）
協会 CFP（R）認定者
- ・1級ファイナンシャル・プランニング技能士
（資産設計提案業務）
- ・福祉住環境コーディネーター
- ・総合旅行業務取扱管理者 など

<取材協力>

メ～テレ（名古屋テレビ）「UP！」

<執筆>

「銀行も不動産屋も絶対教えてくれない！
頭金ゼロでムリなく家を買う方法」河出書房新社

<監修>

「空き家」に困ったら最初に読む本」河出書房新社

現在、相談は、名古屋市内はもとより愛知、岐阜、

三重県、首都圏や関西にもリモートで
お会いする機会が増えました。

「人生の添乗員（R）」は、
他人を気にすることなく、相談者ご自身にとって
有益な提案を心がけています。

◆ 【人生の添乗員（R）】からのワンポイントメッセージ

発行：牧野FP事務所合同会社 代表社員 牧野寿和
〒467-0823 名古屋市瑞穂区津賀田町2-86

◆登録・解除は、ご自身でお願いいたします
こちらから出来ます
<http://www.mag2.com/m/0001575058.html>

◆本メルマガに関するご意見・お問い合わせは
こちらまでお願いいたします
E-MAIL：makino.fp@beach.ocn.ne.jp

牧野FP事務所合同会社
公式サイト：<https://www.makino-fp.com>

◆記事内容に関してのトラブル等について当方では
一切責任を負いかねます
ご自身の責任でご判断下さい

「人生の添乗員」「人生の行程表」は、
牧野寿和の登録商標です
